

業務部速報

No. 95

発行 18. 5. 25

JR東労組 業務部

「津波注意区間を走行する列車の考え方」の説明を受ける！ 職場から積み上げた私たちの声が大きく反映される！！

昨年12月に行った申11号団体交渉では、3回に及び議論で会社から数々の津波対策の不備について具体的な対策が示されず、継続議論としてきました。

この間私たちが現地踏査などを通じて指摘・提起してきたことが盛り込まれた「津波注意区間を走行する列車の考え方」が本社から示されました。

災害対策に「完全」はありませんが、大きな前進と言えます。引き続き、防災士を中心とした「命を守る」取り組みと、検証運動を創りあげていきましょう！

前回交渉における会社の認識

車両搭載設備…避難梯子、メガホン、携帯ラジオ、非常灯が基本。一部で衛星携帯電話。
設 備…津波注意区間の始末端標。避難口(出口)の整備。
津波注意区間全140駅に避難経路案内看板。タブレットに避難アプリ。
訓 練…全乗務員に対して津波に特化した訓練を行うのは難しい。

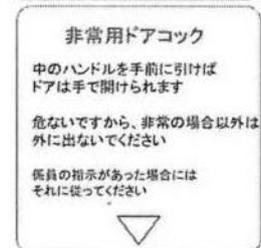
今回示された会社の取り組み

- 「津波注意区間」を走行するワンマン列車に以下の対策をする
 - (1) 全運転台に「ケミカルライト」を配備する
 - (2) ドアコック箇所に、**津波警報発令時は扱って避難できる旨を掲出**する
 - (3) 車両からの**脱出方法をドア部に掲出**する
- 専門のコンサルティング会社に、全線区の津波到達時分等のシミュレーションを依頼し、その結果に基づき対策を検討する ※第1四半期中に報告を受ける見込み
 - (1) 2019年度中に避難誘導に関する看板を設置する
 - (2) 津波到達時分に鑑みた列車の「引き抜き」を検討する
 - (3) 津波避難アプリへの津波到達時間の表示機能追加
- シミュレータや現車で**訓練を重層的に実施**していく
 - (1) シミュレータを活用し、発災後の初動対応を覚える機会をつくる
 - (2) 現車で実態に即した避難誘導訓練を計画する
 - (3) 数年スパンで**全乗務員が実践的な訓練を経験できる**ように計画する
- 定期的(年1回)な防災業務実施計画の確認
 - ・ 自治体のハザードマップ等に変更がないか確認し必要な修正を行う
- その他
 - ・ 社員教育用DVDの作成

ケミカルライト



ドアコックステッカー



ドア部ステッカー

